



作業の軽減や効率化といった課題に直面する土木・建設の現場を、強力にサポートできるサーボトータルステーション「FOCUS35」。無駄やミスのない測量作業を求めていた道路工場の現場で導入された理由や効果を、工事責任者と作業員の立場から伺いました。

「再測の必要がないのが助かる」

現場責任者 比嘉 清さん

道路工場の現場では、その日の状況に合わせて、逃げ杭などを計算する必要があります。しかし、以前使用していたトータルステーションには計算機能がなかったため、その場で電卓などを使用して計算していました。計算した数値をトータルステーションへあらためて手入力するといった現場作業が多く、どうしても入力ミスなどが発生したことから、「データの有効活用によるミスの軽減」が課題でした。

今回、事前にソフトで作成した中心線、縦断、横断、基準点のデータをFOCUS35へ転送しておく機能を活用しています。これによって現場での計算が不要となり、入力ミスといったヒューマンエラーが無くなりました。そして、再測等による作業負担が軽減し、工事の進捗が遅れることも無くなりました。

また、任意点設置が可能になったことが大きいです。作業中は勿論、作業終了後に、次の日

に使用する逃げ杭の設置も必要なくなり作業効率が大幅にアップしました。

「どこでも置いて、やりたい仕事ができる」

現場作業員 比嘉 涼太さん

私は現場作業で、FOCUS35の「横断路線」と「路線測設」を活用して、効果を感じています。

「横断路線」は、任意の点にFOCUS35を設置して観測することで『断面離れ』や『鉛直離れ』が確認できるため、とても効率的です。これまでは断面上に器械を設置して観測していたので、ターニングや現場の状況によっては作業できないことがあり、とても不便でした。

「路線測設」に関しては、状況に合わせて、その場でオフセット入力して作業できるので時間のロスもなく、作業効率が向上しました。

そして、両方の作業に言えるのは、プリズムを追尾してくれるので、リアルタイムに現在地の値が分かること。このため、作業スピードが格段に上がっています。もう私の現場では、この機能なしの作業は考えられませんね。

これからを見据えて

現場責任者 比嘉 清さん

FOCUS35を導入したことで、2人でやっていた作業が1人でできるようになりました。空いた1人を別の仕事に充てられるので、現場が格段に効率化しています。責任者として、これからもお客様から頂く仕事に丁寧な対応をしていきたい。そのためにも最新技術を現場に導入して、次の世代に仕事を任せていきたいです。



比嘉 清さん



比嘉 涼太さん

有限会社丸宮建設 様

有限会社丸宮建設様は沖縄県名護市に拠点を置き、道路工事をメインに活躍する建設業者です。

有限会社測商のCPDSセミナーでサーボトータルステーションを使ったワンマン観測の効果を実感され、今回FOCUS35を導入して頂きました。